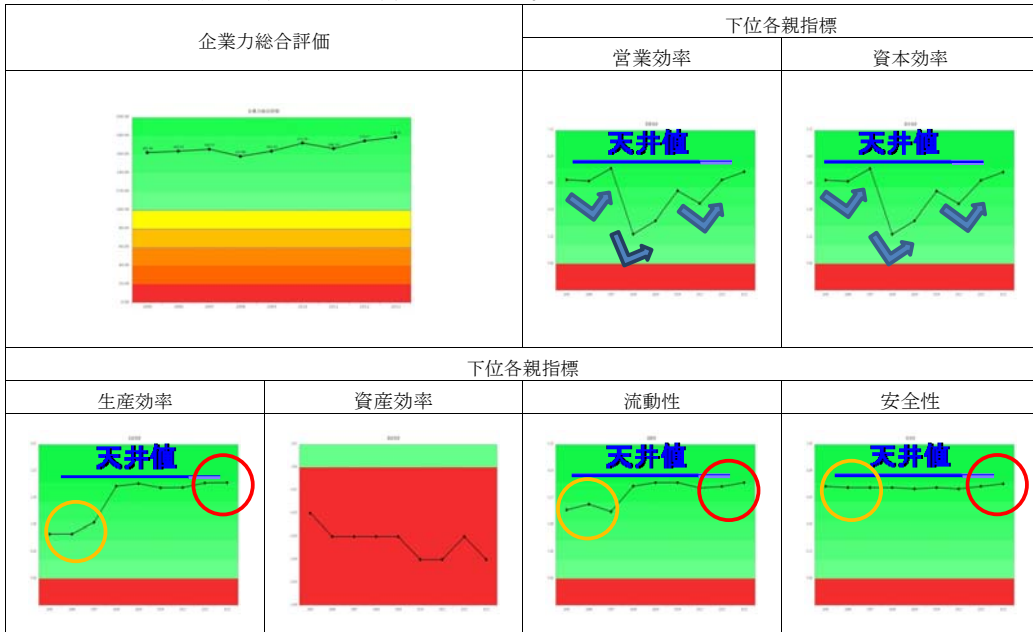


今回は、株式会社自重堂（じちょうどう）を分析しました。㈱自重堂は、広島県に本社をおくユニフォームのトップメーカーです。広島県といえばアパレルの総合産地。古くから縫製業、擦糸業、織物業など繊維産業が盛んで、全国シェアのおよそ 50%を占めるワーキングウェアをはじめ、婦人服・子供服・ジーンズ・スポーツ・カジュアルウェアまで、アパレルメーカーが集積しています。その中で、㈱自重堂は、創業大正 13 年 9 月、設立昭和 35 年 7 月の老舗企業です。

2005 年から 2013 年 6 月期までの 9 期分析しました。



企業力総合評価は、161 → 163 → 165 → 157 → 163 → 172 → 166 → 174 → 178 と推移しています。ゆるやかに、着実に、ポイントを上げています。

営業効率（儲かるか）資本効率（資本の利用度）は青信号領域を推移しています。営業効率の下がった期が 3 回ありました。注目したいのは、下がった翌期は、必ず上げているところです。営業効率の悪化をちゃんと把握して分析し、翌期には改善策を実行に移しているのでしょう。

生産効率（人の利用度）は、2008 年急改善しています。767 人いた従業員が 450 人に減っています。これは、2008 年 5 月に製造子会社の株式会社川口ソーイングを解散したからです。

資産効率（資産の利用度）は、赤信号領域にどっぷり浸かっています。

流動性（短期資金繰り）は、青信号領域で改善トレンドです。

安全性（長期資金繰り）は、青信号領域の天井値です。自己資本比率は 78.81%もあります。素晴らしい数値です。

経営者は「自重堂」という社名に、「自重を胸に進取な心で」との思いをこめられているそうです。経営分析の結果もそのようになりました。

㈱自重堂は、東証 2 部に上場しています。配当利回り（配当金額÷株価）が良い会社で有名です。2014 年 5 月 13 日、配当予想 55 円が出た時の株価が 1000 円前後ですから、金利にして 5.5%の高利回りということになります。配当権利の確定する決算期末（6 月末）に向けて株価が上がっていき、5 月末には 1200 円前後になりました。

前ページのグラフのうち、下段のグラフを見ると、2005～2007 年の前半期（○）と 2012～2013 年の後半期（○）とでは、安全性は同等レベルですが、生産効率、流動性は前半期より後半期の方が圧倒的に良くなっています。そして、上段の企業力総合評価も上がっていました。

株価と企業力総合評価のグラフを重ねてみると・・・。



株価と企業力総合評価の動きはおおまかにリンクしていますが、後半期の企業力アップのわりに、株価はかなり割安にとどまっているのではないのでしょうか。

まとめ

儲ける力、資本・人・資産の活用、短期・長期の資金繰りなど、あらゆる要素を統合した結果が企業力総合評価です。それが着実に上がっているということは、それぞれの要素がバランスをとりながら結集して成果を出している優秀な会社であるということです。

1つ、あるとすれば、実力の割に株価が低いことでしょうか。今後、IR や広報に力を注ぐ余地はありそうです。

編集後記 失敗は成功のもと。コケる前より、起き上がったあと、より良くなればいい。そう思っ
て繰り返していたら・・・実力がアップしている！ 文責 MS

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-9-21 SARUKI ビル 4F 猿木真紀子税理士事務所

Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp